

## 2025年度 大学入学共通テスト 現代文(本試験) 分析

試験時間 古典とあわせて90分

難易度	出題分量	出題傾向
前年並みかやや易化。総字数、設問数は増加したが、4択問題が増えて受験生の負担は軽減した。第3問は試作問題よりシンプル。	第3問追加のため総字数は増加。マーク数は変更なし。受験生にはそれほど多く感じられなかったのではないか。	新傾向の第3問は、前年までの複数テキスト問題を独立させたような形式。第1問・第2問は問題の難易度自体に大きな変化はない。
<p><b>総評</b></p> <p>前年並みかやや易しい出題である。評論はひねった出題はなく、文章の読解力がそのまま解答に反映される。小説は字数が増加し、語句意味の問題がなくなったことで、読解問題が増加し、やや難しくなった。実用文の問題は対策問題をしっかり解いていた生徒にはそう難しく感じられなかったのではないか。</p>		

### 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	評論	45点	問1は漢字の問題で難易度は標準的。問5の表現に関する問題は、苦手になっている受験生も多いのでやや難しかったかもしれない。その他はオーソドックスな文章読解問題である。
第2問	小説	45点	前年復活した言葉の意味の問題がなくなり、オーソドックスな心情読解問題を中心とする出題であった。問5の表現関連の問題は例年に比べて解きやすい。
第3問	実用文	20点	生徒の書いた文章を修正、推敲する問題である。問1の理由の挿入、問2の表現修正は比較的平易だが、問3のグラフの読み取りがやや難しかった。

### 1・2年生へのワンポイントアドバイス

<p>第3問の実用文の出題が注目されていたが、資料の数は少なく読み取りやすいものが中心であった。また、評論や小説はひねった問題が少なく、オーソドックスな出題に回帰している。評論・小説・実用文ともに日頃の授業や問題演習、模擬試験等を通じて読解力と解答力を養うべきである。また、国語の授業で文章を書く機会があれば、自分の文章を推敲するトレーニングを積んでおくとよいだろう。</p>
--